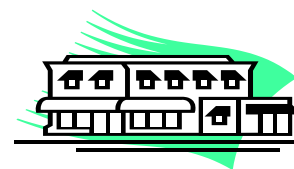


## 総領事館便り 5月号



### ★新着任者挨拶 ※以下着任順

#### ●矢澤隆博 領事（経済）

会員の皆様、はじめまして。4月16日に平瀬副領事の後任として、在スラバヤ総領事館に着任いたしました矢澤隆博（やざわ たかひろ）と申します。

主な担当は、経済、運輸関係となります。東ジャワ州は多数の日系企業が進出し、インドネシア東部地域の経済活動の中心的役割を担っていると承知しておりますので、特にこれらの分野を通じて皆様のお役に立てるよう努めて参りたいと考えております。

また、私生活においては、妻と二人初めての海外生活で不安を抱えながらこちらに参りました。こちらに来てすでに2週間ほど経ちましたが、日本との違いに戸惑いながらも楽しく過ごしております。皆様のご助力をいただきつつ、より一層の有意義なスラバヤ生活を過ごしていければと思っております。これからどうぞよろしく願いいたします。

#### ●大橋俊之 領事（警備）

会員のみなさま、はじめまして。

4月25日に岡田領事の後任として総領事館に着任した大橋俊之（おおはし としゆき）と申します。千葉県警察から外務省に出向し、現在当館にて安全対策を担当しております。

私はインドネシア駐在員の子弟として、1988年から1997年までの9年間、スハルト大統領（当時）時代のジャカルタで過ごしました。東ジャワへの長期滞在は今回が初めてで、言葉、文化の違い（特にスラバヤ訛り）に戸惑いながら、総領事館の一員として日々業務に取り組んでおります。これから3年間、安全担当職員として在留邦人の安全確保のため努力して参りますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

### ★「東ジャワ州トゥバン県におけるイスラム中学校校舎改築計画」完成式

4月20日（金）、東ジャワ州トゥバン県において平成28年度に日本政府が草の根・人間の安全保障無償資金協力の枠組みで支援したアル・ヒダヤ・イスラム中学校校舎改築計画の完成式が執り行われ、谷総領事が出席しました。本事業は、生徒及び教員の教育環境向上を目的として同中学校の改修・増築、トイレ及び教室備品の整備を行ったもので、供与額は725,716,000ルピアとなります。同式にはファトゥル・フダ県知事やフスヌル・コティマ同中学校校長他が出席し、両者より日本政府による支援への謝意が述べられた上で、本事業により学習の妨げとなっていた雨漏り等の問題が改善され教育環境が大きく向上した、生徒らが今後より懸命に勉学に励み優秀な成績を収められるよう尽力したい、今次支援が最大限役立つよう適切な維持管理に努めていきたい旨挨拶が述べられました。



記念碑に署名する谷総領事（中央）  
（左：フスヌル・コティマ校長、右：ファトゥル・フダ県知事）



校舎視察時の生徒との集合写真



改築された校舎

## ★日本語能力試験 N1, N2 合格者表彰式

4月27日（金）及び28日（土）、昨年12月に行われた2017年第2回日本語能力試験（JLPT）のN1及びN2合格者に対する認定証表彰式が行われました。今回スラバヤ会場及びマラン会場において、13名がN1に、46名がN2にそれぞれ合格し、スラバヤ会場合格者への表彰式を当館講堂にて、マラン会場合格者への表彰式を国立ブラウィジャヤ大学日本文学科文化祭「Isshoni Tanoshimimashou 13」開会式にて実施しました。一般の方、大学生、日本に在留経験のある高校生など様々なバックグラウンドをもつ合格者に対し、谷総領事からは「当館管轄内で多くの方が上級レベルに合格されたことを非常に嬉しく思う。本年が日インドネシア国交60周年であることも踏まえ、今後、本日の出席者の皆さんがインドネシアと日本の架け橋となり、両国の関係が一層深まること、東ジャワにおける日本語教育の更なる促進につながることを期待している」旨激励の挨拶が述べられました。



スラバヤ会場合格者集合写真



マラン会場合格者集合写真

## ★第39回東ジャワ地区日本語弁論大会

5月5日（土）、1945年8月17日大学（UNTAG）にて、在スラバヤ日本国総領事館及び国際交流基金共催、東ジャワジャパンプラブ（EJJC）及び元日本留学生協会（プルサダ）東ジャワ支部の後援にて第39回東ジャワ地区日本語弁論大会が開催されました。今次大会には各大学から選ばれた大学生や社会人計13名が出場し、出場者は様々なテーマについて弁論を通じて熱く語りました。



優勝したのは国立ブラウイジャヤ大学（UB）のベナルド・カサデナ・マメサさん。「こころスープ」と題した弁論で、幼い頃温かなスープで励ましてくれた母を手本とし、「こころのスープ」をもって人の心を温かくし、希望を与える人になりたいと語りました。準優勝は同じく UB のアルマニア・バウォン・クレスナムルティさん。「バナナの木のよう」と題し、実や葉、茎や花などその全てが人間の生活に恵みを与えるバナナの木のよう、相手をいたわり、思いやり、共に喜びを分かち合うことで人の役に立つ生き方をしようと呼びかけました。また3位には、「勝ち組」「負け組」という枠に囚われず自信を持って自分らしく生きていくことの大切さを説いた社会人のスリ・ヒンドウン・ローマーさんが選ばれました。会場には大学生や大学関係者、EJJC 会員の方、日本人留学生や、過去の大会の入賞者の姿も見られました。優勝者、準優勝者に対し永山和子賞を授与いただきました東ジャワジャパンクラブ、審査員を務めてくださいました佐藤同会長、徳長スラバヤ日本人学校校長、当日会場に足を運んでいただいた皆様に対し、心より御礼申し上げます。優勝者・準優勝者は7月14日（土）にジャカルタで行われる全国大会に出場します。東ジャワ代表としての健闘に期待したいものです。



「永山和子賞」を優勝・準優勝者に授与する佐藤 EJJC 会長



参加者集合写真

## ★スラバヤ市制725周年記念パレード (Surabaya Vaganza)

スラバヤ市政府からの案内を受け、5月6日（日）、当館館員及び在留邦人有志が日本チームとして市制725周年記念パレード（Surabaya Vaganza）に参加しました。当日はスラバヤ市長出席の下、多くの市民に見守られながらユニークな衣装を身を纏った80以上のチームが列をなしパレードを行い、大いに盛り上がりました。参加協力いただいた在留邦人の皆様、炎天下の中ありがとうございました。



日本チームとスラバヤ市長との記念撮影



パレードの様子